

### 第3回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会 議事録

1. 日時:平成24年12月4日(火) 10:00~12:00

2. 場所:一般社団法人 日本自動認識システム協会 B会議室

3. 次第:

- |                       |       |              |
|-----------------------|-------|--------------|
| 1. 開会の挨拶              | 事務局   | 10:00 ~      |
| 2. 配布資料の確認            | 事務局   | 10:01 ~      |
| 3. 議事                 | 半谷委員長 | 10:05 ~11:55 |
| 1) 委員長挨拶              | 半谷委員長 | 10:05 ~10:08 |
| 2) 前回議事録確認            | 事務局   | 10:08 ~10:20 |
| 3) Biometrics2012 報告  | 瀬戸委員  | 10:20 ~10:40 |
| 4) バイオメトリクスと ID 体系の整理 | 山口委員  | 10:40 ~11:10 |
| 5) 共通認証基盤システム検討状況     | 中村委員  | 11:10 ~11:50 |
| 6) まとめ                | 半谷委員長 | 11:50 ~11:55 |
| 4. 事務連絡               | 事務局   | 11:55 ~12:00 |
| 1) 今後の日程              |       |              |
| 2) 写真撮影など (適宜)        |       |              |

4. 出席者:(敬称略)

- |        |       |                            |
|--------|-------|----------------------------|
| ・委員長   | 半谷精一郎 | 東京理科大 工学部電気工学科             |
| ・委員    | 瀬戸 洋一 | 首都大学東京 産業技術大学院大学           |
| ・委員    | 中村 敏男 | (株)OKI ソフトウェア 企画室          |
| ・委員    | 山口 利恵 | 産業技術総合研究所 セキュアシステム研究部門     |
| ・委員    | 菊地 健史 | (株)日立ソリューションズ プラットフォーム開発本部 |
| ・委員    | 福田 充昭 | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所    |
| ・委員    | 吉福 貴史 | 日立オムロンターミナルソリューションズ(株)     |
| ・委員    | 平野 誠治 | 凸版印刷(株) 事業開発・研究本部          |
| ・オブザーバ | 鎌倉 健  | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所    |
| ・事務局   | 酒井 康夫 | (一社)日本自動認識システム協会           |

5. 配布資料

- 資料1: 第3回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会アジェンダ  
 資料2: 第2回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会議事録(案)  
 資料3: Biometrics2012 出張報告  
 資料4: バイオメトリクスと ID 体系の整理  
 資料5: 共通認証基盤システム検討状況

## 6. 議事内容

### 1) 前回議事録確認

事務局より、資料2を用いて、IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会議事録を確認し、承認された。

### 2) Biometrics2012 出張報告

瀬戸委員より、資料3を用いて、当委員会として瀬戸委員にご依頼、ご出張、調査いただいた英国 Biometrics2012 (Biometrics Exhibition and Conference 2012) の調査内容についてご報告があった。

ご報告概要は下記。

- ・ 欧州を中心とした商業的なカンファレンス (コーディネータ Elsevier)。メインスポンサー NEC、富士通、展示会社 42 社、セミナー 53 (14 セッション)、参加者約 225 名 (セミナー登録者数)、参加者の特徴: アフリカ、中近東の参加者も含まれる (5%) 日本からの参加者: 6 名、中国系 (China 1 名 Hong Kong 3 名) が参加登録者名簿以上に多く感じた。
- ・ 全般の感想として、展示会社数は、減っていない。Forensic 用途 (DNA など) が新規に目につくほかは大きな注目点はない。セミナー参加者数は例年に比べ少なく感じる。一つのセッションの参加者は、30-70 名程度。
- ・ 講演が中止になり差し替え発表や、スポンサー企業の宣伝発表、あるいは、発表内容が表層的すぎ、実証されたものが少なく、お話しレベルのものが半分以上あるなど、例年になく低調なカンファレンスであった。  
これは、シェンゲン情報システムなどの開発も一段落し、DNA などの forensic 用途以外の大口の新市場が立ち上がっていない模様であることなどが影響していると思われる。  
また、欧州では、公的市場 (社会 ID) や民間市場が立ち上がっていない、あるいは飽和している状況にあるためと考える。  
社会的 (ID 関係の実証プロジェクト、脆弱性プライバシーなどのプロジェクト) には日本よりはるかに進んでいるが、技術開発的には日本の企業の方が遥かに進んでいるという感想をもった。モバイルなど新しい市場に関する発表もあったが、発表のレベルが低く、この分野の日本の技術的なリードは一目瞭然。
- ・ 欧州は入国管理システムに関し、アフリカ、中近東に対し、技術的なリーダーシップをとって取り囲みを図っているように感じた。
- ・ 上記を考えると、日本においては、社会的な大型プロジェクトが実施されていないこと、アジアへの市場展開が遅いことが、日本の産業界の問題と考える。
- ・ 今年の目玉は DNA? 入国管理システム、フォレンジック関係はネタ切れのようである。

### 3) バイオメトリクスと ID 体系の整理

山口委員より、資料4を用いて、SWGにて取り組んだ「バイオメトリクスと ID 体系の整理」のご報告とご提案があった。

質疑応答と検討を行った。

ご報告概要は下記。

- ・ 3回のSWGにより「バイオメトリクスと ID 体系の整理」に取り組んだ。  
具体的には、バイオメトリクスの利点と欠点を踏まえ、何かいい事例を見つけられたらと思えば、ブレインストーミングの形で次に取り組んだ。
  - アプリケーションを考える
  - プライバシーの問題を解決するためにどうするか
- ・ バイオメトリクスの特徴として、特にその短所は、プライバシーの問題で、特に匿名性が担保できないということ。

- IdMの特徴は下記。
  - 各手順に従ってセキュリティ基準が定められていること
  - サービスの利用者が複数であっても活用が可能なこと
  - レベル1は、メールの到達確認だけ匿名で登録可能（サービス例：文書公開の請求）、逆にレベル4は厳格に本人確認している（サービス例：登記）などの階層分けされており、認証系に対するコストとリスクのバランスが取れている体系となっていること。
- 両者を踏まえると、次のようなものが直近の対応のために必要であろう。
  - リモート認証での問題が無視できるようなサービスへの適用
  - プライバシの問題が超越できる応用への適用
  - 1つの枠内で責任者が複数ということを生かす応用
  - スピードに考慮した上で、最初の認証に時間をかけてもよいサービスへの適用
  - 登録はリモートを利用し、利用は人の目の前の利用をするのはどうか
- 以上を踏まえると、次のようなものが直近のターゲットとして良いと考えられる。
  - ①震災等、何も持たない状況での認証
  - 被災地での行列の回避（支援物資の分配、ガソリンスタンド、等）

以上のご報告に対して、次の補足があった。

- IdM側から見たバイオメトリクスの問題点は大きく言うと次の2点。
  - コストとリスクのバランスが取れていないように思えること。レベル1、2に適用するには、装置、ソフトのコストが高い。ただし、長期的に考えた時、これは解決してゆくはず。
  - プライバシの問題の解決のための明確な対応策がない。  
これは、長期的に考えた時、プライバシーの問題はキャンセルラブル認証技術が完成すると解決するもの思える。
- 長期的に考えた提案をするより、直近にバイオメトリクスを広げるためにどうするかに重点を置いて今回の提案をまとめた。

以上のご報告と補足を踏まえて、今後のプロジェクトの検討に対して、次のアドバイスがあった。

- 災害時緊急性用途に対応することのご提案に加え、
  - ものを言わないもの、言えないもの（赤ちゃん、痴呆老人など）を対象にした応用、
  - 急速に発達する技術に対応してゆくことが難しい世界（発展途上国）での応用、
  - 避難民対応
- 等にも、緊急避難的な応用として範囲を広げて提案、検討してゆくことが良いのではないかと。

#### 4) 共通認証基盤システム検討状況

中村委員より、資料5を用いて、「共通認証基盤システム検討状況」についてご報告とご提案があった。質疑応答と検討を行い、ご提案の方針にしたがって今後開発研究を進めることが承認された。

提案概要は下記。

##### (1) システム構成

BioIDM プロトコル（OP-BP-UA 間のプロトコル）は、OpenID プロトコルを流用する

- 本方式の利点
  - 開発容易性
  - システム構成の柔軟性

##### (2) 留意事項

- 処理プロセスが複雑なため性能上の懸念がある
- BP のセキュリティが OpenID のコンセプト範囲内に縛られる可能性がある
- OpenID Connect への拡張が可能か不明
- SAML での実現性については別途検討要

- (3) 実証実験のイメージ  
BSPの違い、ブラウザの違い、システム構成の違い、OpenID対応サイトの違いという観点に着目してそれぞれの条件におけるシングルサインオンの機能検証および性能評価(速度評価)を行う。
- (4) 実証実験への協力依頼  
サーバ借用と実験期間中の設置に対する協力依頼が、大学および研究所の委員にあり、協力の詳細について、半谷委員長とご相談することとなった。

## 7. 事務連絡

### 1) 次回の予定等

事務局より第4回委員会の予定について提案があった。  
当初の提案予定日の都合が変わった委員の方がいらっしゃり、それに対応するため、下記に変更し実施することとした。

#### 第4回委員会予定

日時：平成25年2月22日(水) 15:00~17:00

場所：JAISA 会議室B

以上